

透析患者の大動脈弁置換術後(生体弁)の予後を、心エコーを用いて評価する
(透析患者に対する生体弁を用いた大動脈弁置換術の成績の検討)

当院倫理審査委員会の承認日:令和 4 年 7 月 19 日

(調査の意義、目的)

日本の透析患者数は増加傾向にあります。透析患者様は動脈硬化の進行が速いとされ、大動脈弁狭窄症などの弁膜症が起きやすいと言われています。傷んだ大動脈弁を人工弁に置換する大動脈弁置換術が標準治療であり、その中で 65 歳以上のご高齢の患者様に対しては生体弁を用いた大動脈弁置換術を選択することが多いです。しかしながら、透析患者様の開心術後の生命予後は、非透析患者様と比較して非常に悪く、また透析患者様はカルシウムの代謝異常を伴うため、生体弁劣化の進行が非透析患者様と比較して速いという報告もあります。透析患者様に対する大動脈弁置換術症例の多い当院において、透析患者様に対する大動脈弁置換術後の予後を研究し、非透析患者との比較、リスク因子を検討することで、透析患者様に対する治療ストラテジーを再考するのが本研究の目的です。

(調査の方法)

当院にて既に生体弁による大動脈弁置換術を受けられた患者さまの経過を、カルテ等をもとに調査します。

(調査の対象となる方)

2008 年 1 月から 2021 年 6 月まで、当院で生体弁による大動脈弁置換術を受けられた患者さま。

(個人情報の取り扱いについて)

調査実施に際しては、対象の患者さまの秘密保護に十分配慮します。情報はすべて匿名化され、個人が特定されることはありません。調査結果が公表される場合でも個人が特定されることはありません。この調査で取得した情報は、京都第一赤十字病院心臓センター循環器内科において同科部長 高橋 章之の責任の下厳重な管理を行います。上記の調査への登録を希望されない場合には、担当医または下記までご連絡ください。なおこの調査は、当院の倫理審査委員会で承認されております。

(お問い合わせ先)

京都第一赤十字病院 心臓血管外科 部長 高橋 章之
電話 075-561-1121